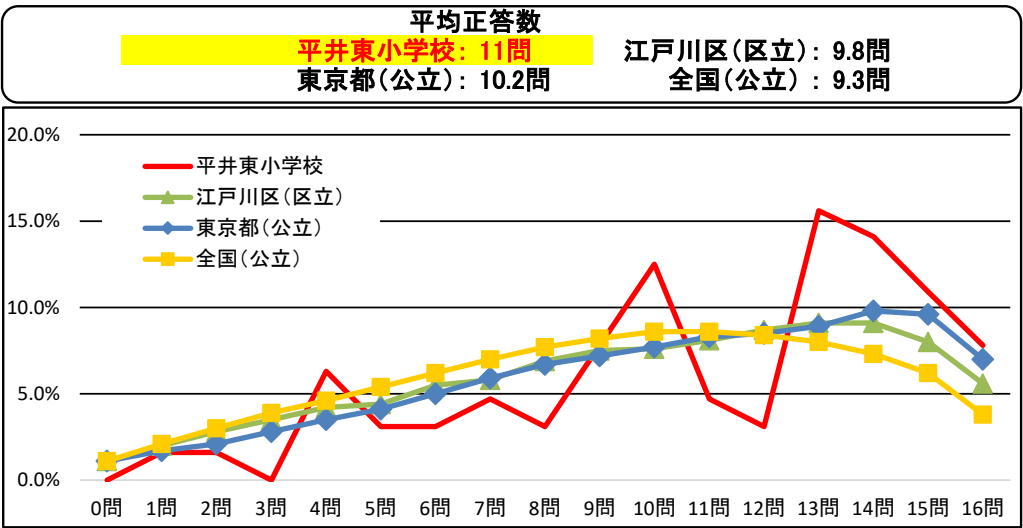


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【算数】平井東小学校

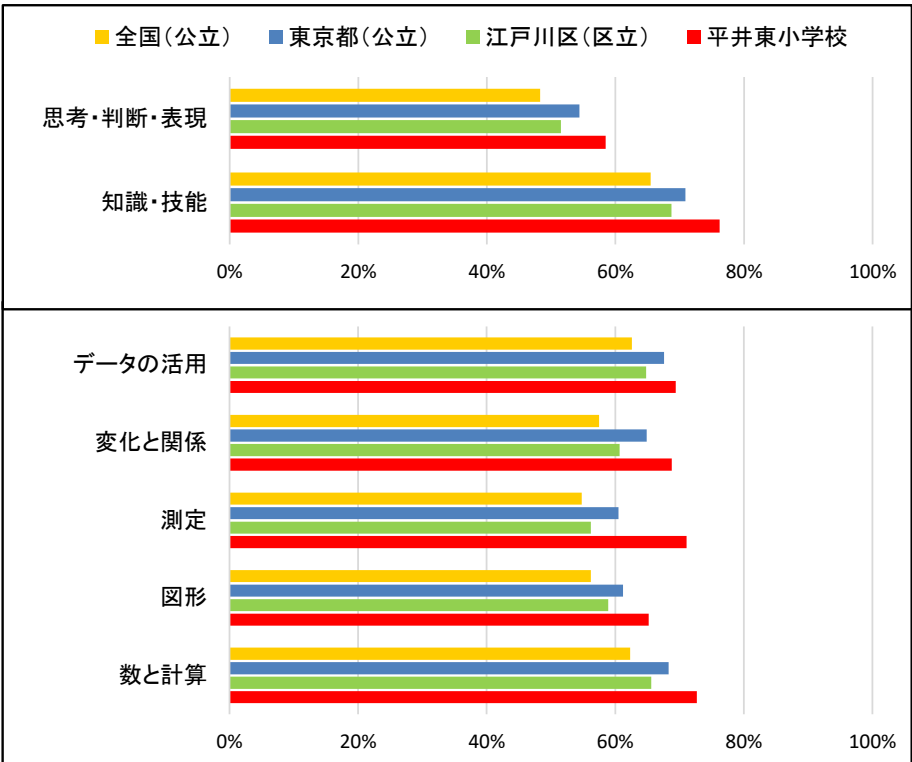
正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

平井東小学校	68%
江戸川区(区立)	61%
東京都(公立)	64%
全国(公立)	58%
都との差(ポイント)	4.0

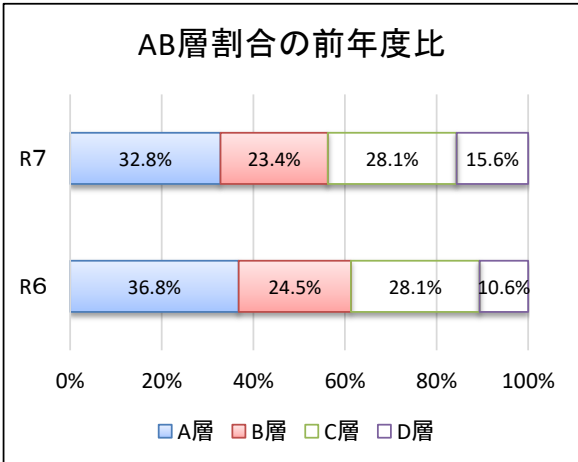
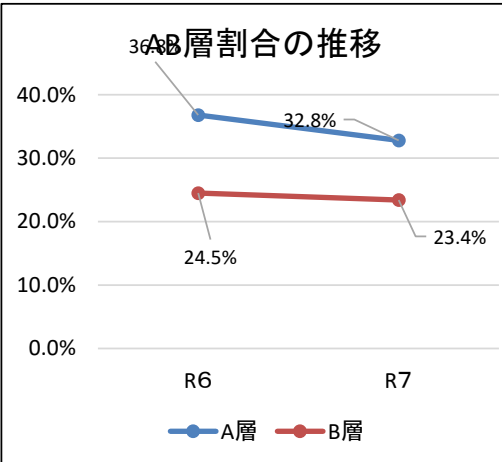
「領域別」の結果



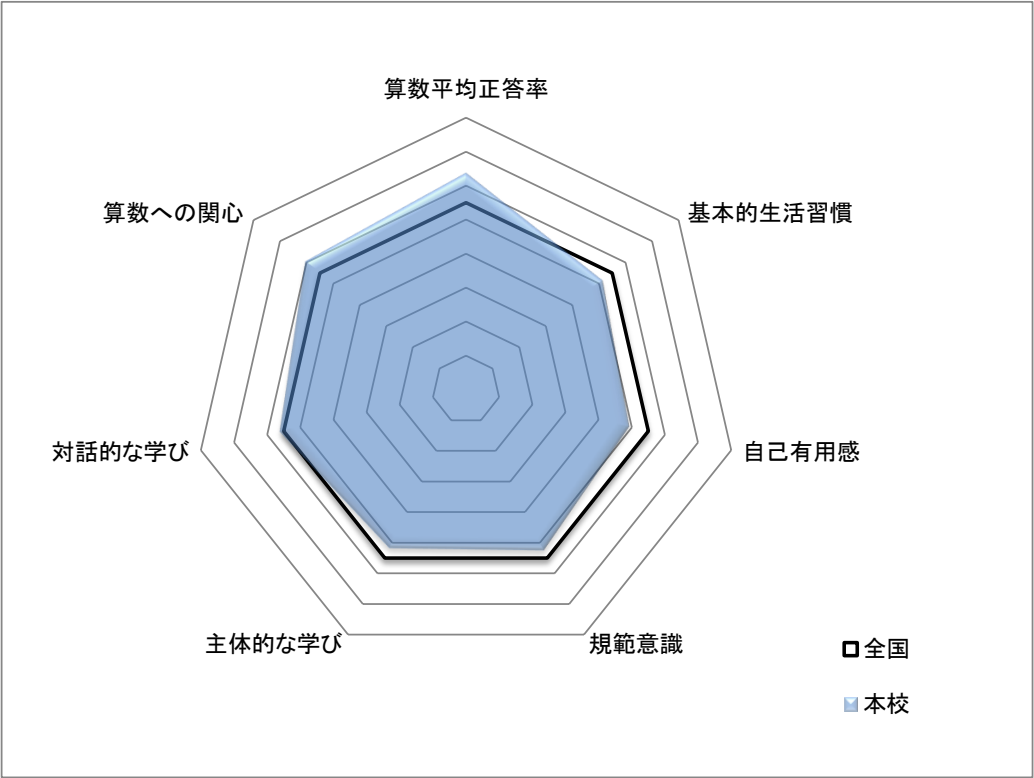
四分位における割合（都全体の四分位による）

算 数	上位 ← → 下位			
	A層 14～16問	B層 11～13問	C層 7～10問	D層 0～6問
平井東小学校	32.8%	23.4%	28.1%	15.6%
江戸川区(区立)	22.7%	25.9%	27.9%	23.5%
東京都(公立)	26.4%	25.7%	27.6%	20.3%
全国(公立)	17.3%	25.0%	31.4%	26.3%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都（公立）のデータを基に定めている。



各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

・全国平均と比べると本校は少し下回っている項目がいくつかある。「算数への関心」や平均正答率が高いが、「自己有用感」や「基本的学習習慣」の項目は低い。

《家庭・地域への働きかけ》

・「基本的学習習慣」や規範意識を身に付けられるよう、引き続きお願いする。
・「算数への関心」を維持できるよう、江戸川つ子studyweekを活用していく。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について
・本校は全国・東京都・江戸川区平均より平均正答率や領域別では、全てにおいて上回っている。しかし、昨年度に比べて、AB層の割合が5.1%低下している。
・A層とB層ともに、少し低くなっている。
・思考・判断・表現は全国・東京都を上回っているが、60%未満と少ない。
・全ての領域で平均を上回っているが、図形領域にやや課題が見られる。

《学校の取組》

・教員の指導力向上
・授業を行う際、デジタル教科書などを活用する。また、効果的な教具を提示したり、活用したりして児童に分かりやすい授業づくりをしていく。
・算数授業スタンダードに基づいた授業を行っていく。
・複合図形等、図形問題ではたくさんの考えを見つけさせる。

・基礎学力の保障

・「水チャレ」や学力向上の時間を活用して、学習する時間を確保する。テストなどで、間違えた問題に取り組むなどして、基礎となる力を定着できるようにしていく。

・学習習慣の確立

・朝学習の時間を活用したり、ミライシードのドリルパークなどの問題を解いたりする。また、家庭学習を出すことで、家庭でも学習習慣が確立できるように協力をお願いしていく。
・家庭学習の提出100%を目指す。

・AB層の育成

・自分の不得手としている領域をわかるようにしていく。そして、ドリルパークやベリックドリルに繰り返し取り組み、正答率を上げていく。
・応用問題へ取り組む時間を確保する。
・itemの活用(計算ドリル)